

# 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 最終報告

## 1. 基本情報

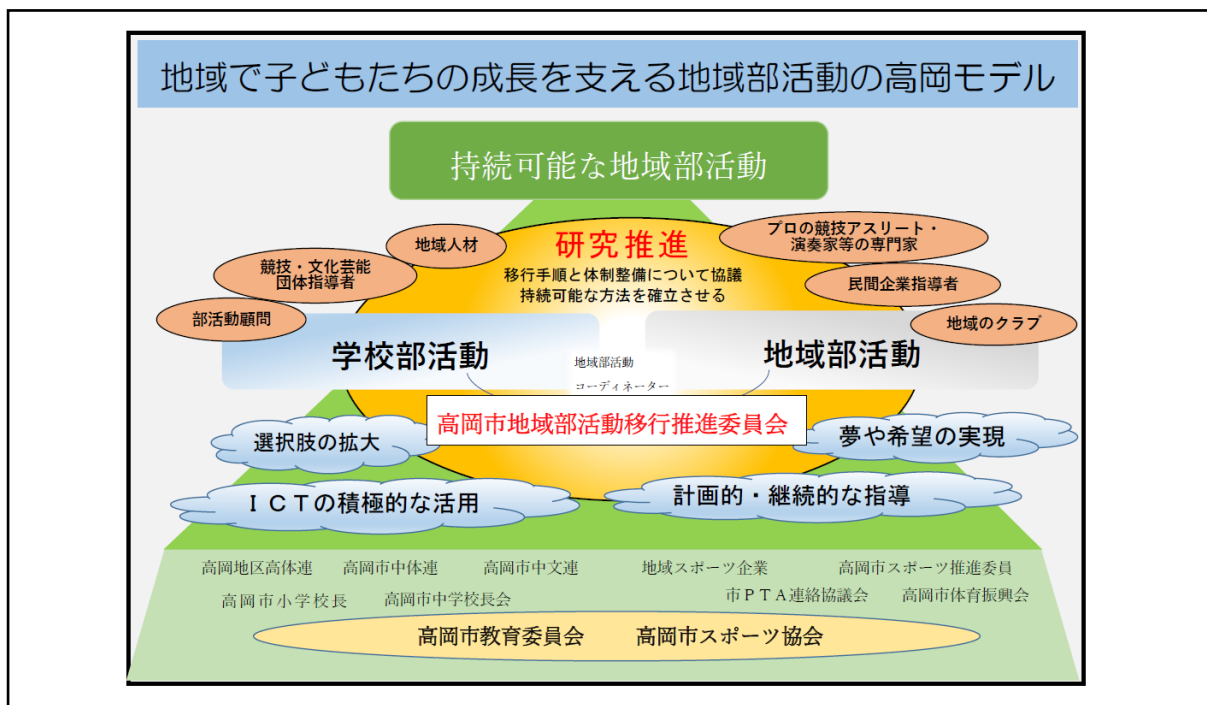
高岡市

### 基本情報

|        |         |                      |        |                      |       |                   |    |
|--------|---------|----------------------|--------|----------------------|-------|-------------------|----|
| 中学校数   | 12 校    | 休日の部活動の地域移行に取り組む中学校数 | 12 校   | 平日の部活動の地域移行に取り組む中学校数 | 0 校   | 協議会・検討会議等の設置状況    | あり |
| 中学校生徒数 | 3,659 人 | 休日の部活動の地域移行に取り組む部活動数 | 123部活  | 平日の部活動の地域移行に取り組む部活動数 | 0 部活  | 推進計画・ガイドライン等の策定状況 | なし |
| 部活動数   | 123 部活  | 休日の部活動の地域移行に取り組むクラブ数 | 16 クラブ | 平日の部活動の地域移行に取り組むクラブ数 | 0 クラブ | 休日の部活動の完全移行予定年度   | 未定 |

### 運営体制・役割

#### ▼運営体制図



#### ▼運営体制組織内での役割分担

- 高岡市地域部活動移行推進委員会（学校教育課）
  - ・推進委員会の事務局・開催
  - ・指導者研修会の企画・運営・報告
  - ・クラブとの連絡調整
  - ・県教育委員会との連絡調整 等
- 首長部局（財政課）
  - ・予算執行
- 関係団体（高岡市スポーツ協会）
  - ・競技団体との連絡調整
  - ・指導者の派遣 等

## 2. 実証内容と特色

高岡市

### 取組内容

**12中・義務教育学校に設置の16種目（競技）について、全市一斉展開型の地域（スポーツ）クラブを展開し、休日部活動の地域移行に向けた体制整備を推進する。**

#### 【実施種目】

- (1) 水泳競技 (2) 陸上競技 (3) 野球 (4) ソフトボール (5) ソフトテニス  
(6) 卓球 (7) バドミントン (8) バレーボール (9) バasketボール  
(10) ハンドボール (11) サッカー (12) 相撲 (13) 柔道 (14) 剣道  
(15) 体操・新体操 (16) 弓道

### 年間の事業スケジュール

- 4月 地域クラブの開始（～2月）  
5月  
6月 第1回推進委員会  
7月  
8月 コーディネーター連絡会議  
9月  
10月 小委員会（団体競技、個人競技）  
11月 第2回推進委員会  
12月 指導者研修会  
1月  
2月 新入生説明会での次年度の予定の周知  
3月 次年度に向けての準備

### 特 色

- 1 市スポーツ協会との連携の下、市の各競技団体を主体として地域クラブを展開**
  - ・年間12回以上を目標に休日の活動の場や機会を確保。
  - ・本年度、本市12中・義務教育学校に設置されているすべての種目（競技）の地域クラブを設置。
- 2 高岡市地域部活動移行推進委員会ならびに小委員会を開催し、地域クラブのよりよい運営や体制整備の状況について成果や課題を共有**
- 3 種目（競技）ごとの地域部活動コーディネーター（教員）が、競技団体と学校との間で連絡調整**
  - ・練習会場の調整      ・実施時期の調整      ・各学校部活動への連絡・調整
- 4 地域部活動の開催日は、種目（競技）ごとに、学校の部活動を原則として実施せず**

## 3. 成果と課題

### 成 果

#### 1 生徒の活動内容の充実

- ・他校の生徒と一緒に活動することで、交流の機会が増え、生徒の意欲喚起や技術向上につながった。

#### 2 教員の負担減

- ・休日の学校部活動が地域へ移行したことで、学校部活動の実施回数が以前と比べ減少した。

#### 3 種目（競技）団体や保護者の負担減

- ・学校の体育施設を活用することで、会場費等の負担が抑えられた。

### 課 題

#### 1 指導者の確保

- ・中学生の発達段階に応じた専門性や資質・能力を有する人材を確保することが難しい。
- ・十分な報酬を支給することができていない。
- ・種目（競技）によっては、地域の指導者の高齢化が進み、後継者が不足している。

#### 2 種目（競技）ごとに差

- ・個人競技には比較的スムーズに活動できている種目（競技）が多い一方、団体競技は種目（競技）ごとに練習場所の確保や用具の確保等、いくつかの課題を抱えている。
- ・地域クラブを母体としたチームで大会に出場した種目（競技）と、参加者が多いことから大会出場はしないこととした種目（競技）がある。

#### 3 地域クラブと学校部活動が併存することによる課題

- ・「地域クラブが実施される日は、体育館やグラウンドの使用は地域クラブを優先する」としたことにより、他の種目の学校部活動や教育活動が活動できない状況が発生している。
- ・兼職・兼業届により地域クラブの指導者となった教員に係る課題が発生している。
- ・学校部活動に所属する生徒について、大会参加に対するモチベーションが低下しているケースがみられる。

#### 4 今後の学校部活動の在り方が不透明

- ・地域移行の一方で、学校部活動が今後どのように学校教育の中で位置付けられるのかが不透明なため、学校現場では、不安や困惑が渦巻いている。

## 4. 課題解決に向けて、今後の方向性

### 課題解決に向けて

- ① 市中体連や市中学校長会と連携し、学校部活動として出場を認める大会の整理を行う。
- ② 学校部活動との併存が続くことも踏まえ、地域クラブの実施時期は大会のない時期とする。
- ③ 地域を主体としたクラブチームが整備されてきた種目（競技）をモデル種目（競技）として指定し、市内一斉に学校部活動としての大会参加の休止、募集停止等を行い、地域移行を進める。
- ④ 種目（競技）ごとに、地域移行の行程（目安）を示す。

など

### 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

|         |                                               |
|---------|-----------------------------------------------|
| 令和7年度   | 種目（競技）ごとの進捗状況の把握と課題の整理<br>学校部活動と地域クラブの在り方の明確化 |
| 令和8年度   | 地域移行モデル種目（競技）の指定                              |
| 令和9年度以降 | 種目（競技）ごとの地域移行の行程（目安）の提示                       |